施工要領書

VICTAULIC®

⚠ 注意
- ヴィクトリックジョイントS型（W型・C型）を施工される前に必ずお読み下さい。
- この施工要領書の手順に従って施工しない場合は脱管、漏水などの事故となります。

品名	使用最高圧力
SO型	1.0MPa（10kg／cm²）
S1型	2.0MPa（20kg／cm²）
WO型	0.5MPa（5kg／cm²）
W1型	1.0MPa（10kg／cm²）
C1型	1.0MPa（10kg／cm²）

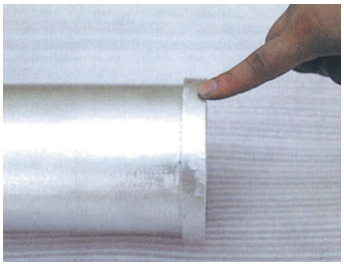
1 部品の確認と準備する物

- ハウジング（2セクション）、ゴムリング（1本）、ボルトナット（2本）の部品点数を確認して下さい。
- 組立て用のスパナ、及び潤滑剤を準備して下さい。潤滑材＝シリコングリス、又は滑らかスプレー（当社販売品）
- 部品点数はサイズにより異なりますのでご注意下さい。

2 管端シール部のチェック

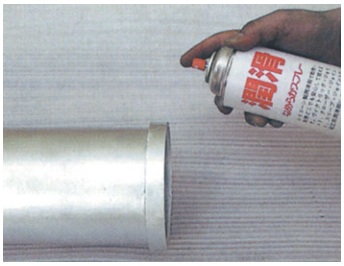
- 管端及び管端部はほぼ直角であり真円であること。
- ショルダーカラーが規定の位置で全周溶接されていることを確認して下さい。
- 管端寸法は形式により異なりますので、カタログを参照下さい。
- 指触により、シール部が滑らかである事を確認して下さい。

軸方向のキズ、及び塗料の凹凸はグラインダー・サンドペーパー等により滑らかに仕上げてください。



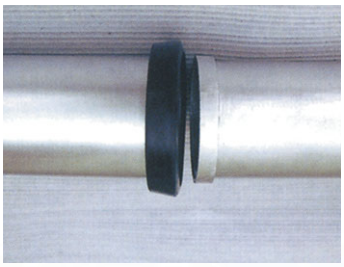
3 サビ止め塗装

- 恒久配管の場合はシール部にサビ止め塗装を行ってください。
  塗料＝ヘルメシール30V（日本ヘルメチックス社製）
- ジンクリッチ、ローバル等粒子が粗い塗料は漏水の原因になりますので使用しないで下さい。



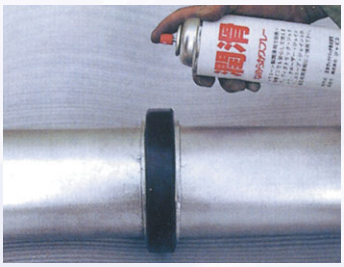
4 潤滑剤の塗布

- 組立不良防止の一環としてシール部及びゴムリングには必ず、潤滑剤を薄く塗布して下さい。

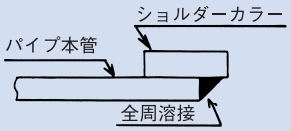


5 ゴムリングの取付け

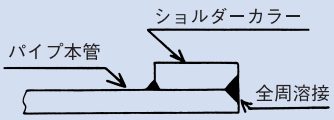
- 最初にゴムリングを引き伸ばす様にして片側の接続管にはめ込みます。この時金ヘラなどを使用するとゴムをキズつけますので使用しないで下さい。
- 接続管のレベルの確認を行い、芯ずれが生じている場合は支持金物等の調整によりレベルを合わせて下さい。
- 接続管同志の隙間はEmax（カタログ値）以内とする。
- 以上の確認終了後、ゴムリングを接続管のほぼ中央（a≒b）に移動して下さい。
- ゴムリングの一部分がパイプのスキマに落ちていないか確認して下さい。



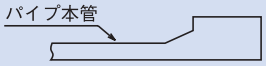
S型管端形状例（25A～500A）

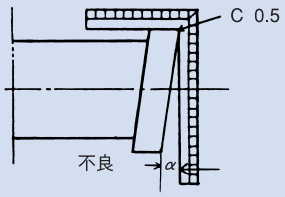


W型管端形状例（350A～900A）

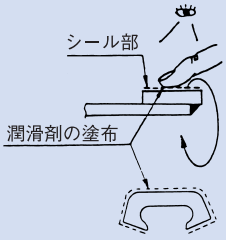


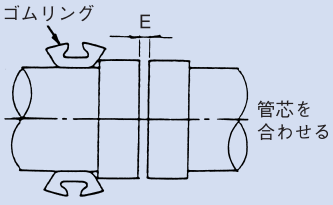
C型管端形状例

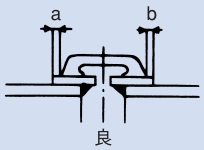


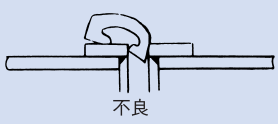


サイズ	α（mm）
100A以下	1以下
125A以下	1.5以下







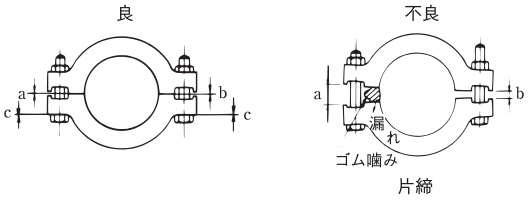


6 ハウジングの取付け

- ハウジングの内側と、ゴムリングの外面に潤滑剤を塗布して下さい。
- ハウジングをゴムリングに被せ、ショルダーカラーがハウジングの爪部の間に正確に入っているか確認してからボルトを締付けて下さい。この時、両側のボルトにナットを少しかけた時点で、ゴム噛み等ゴムリングのセット不良を防ぐ為ハウジングを2、3度回転させてからボルトを締付けて下さい。
- ボルトは、根角（共回り防止機構）をハウジングのボルトホールに合わせて挿入して下さい。
- ボルトが締りにくい時はボルトをゆるめてハウジングをはずしゴムが正常にセットされているか最初からチェックして下さい。
- 片締めのない様、交互に締付け、ハウジングの隙間が〝0〟タッチになるまで締付けて下さい。

7 施工の確認

- a、b、cの隙間が〝0〟（メタルタッチ）になっていることを確認して下さい。
- ハウジングの爪部がショルダーカラーに乗り上げていないことを確認してください。



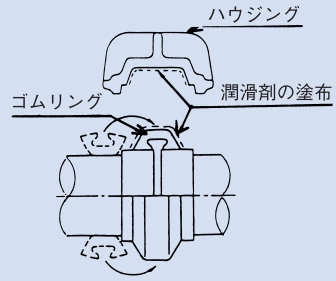
8 配管支持間隔

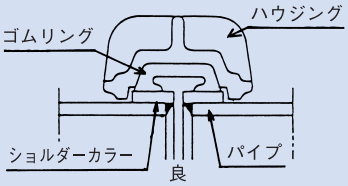
- 国土交通省「公共建設工事標準仕様書（機械設備工事編）」（令和4年度版）による

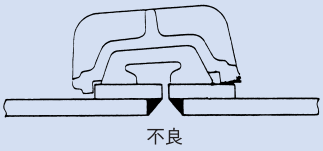
最大支持間隔	
棒綱吊り支持	形綱揺れ止め支持
15A～100A　2m以内 125A～300A　3m以内	15A～50A　不要 65A～100A　8m以内 125A～300A　12m以内

9 保管

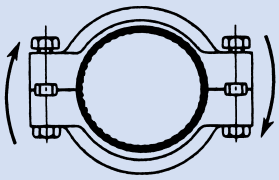
直射日光が当る場所に長期間放置しない様にして下さい。屋内に保管するか屋外の場合はシートなどをかけて下さい。



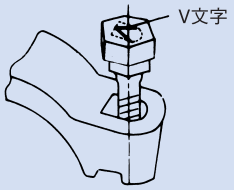


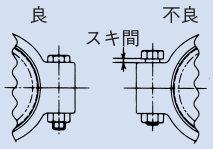


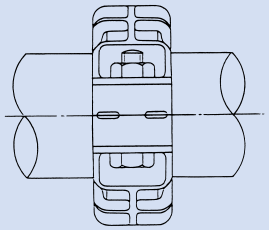
爪がカラーの上に乗り上げている



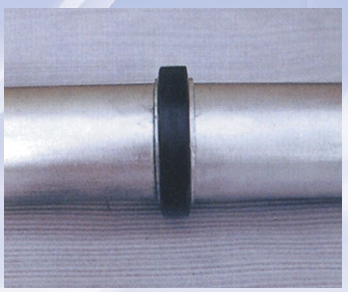
2、3度回転

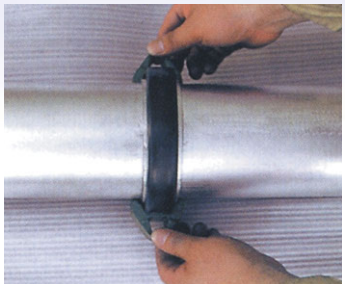


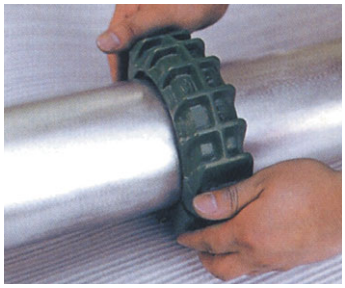


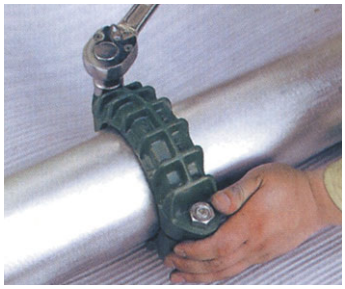


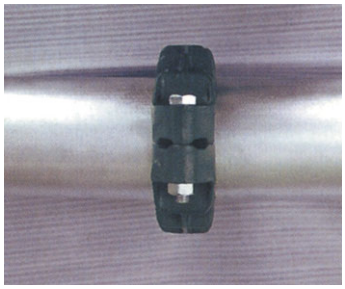
施工完了











御不明な点がありましたら、下記に御連絡下さい。

日本ヴィクトリック株式会社

本　　社　03（5114）8531
大阪支社　06（6341）3556
名古屋支社　052（223）8251
福岡支社　092（431）8208
札幌支社　011（241）0021
滋賀工場　077（553）5121
神戸工場　078（994）6721

MANAGEMENT SYSTEM CERTIFICATION DNV ISO 9001・ISO 14001
MGMT. SYS. RvA C 024